

## 第14回「社会・意識調査データベース (SORD)」 ワークショップの開催

The 14th Workshop of Social and Opinion Research Database Project (SORD)

小内 純子

第14回「社会・意識調査データベース (SORD)」ワークショップを2005年2月20日(日)、13時～17時30分、本学G館5階特別会議室において開催した。SORDでは、現在、北海道という地域に根ざしたデータアーカイブを構築し、北海道の社会調査センターに発展していくための準備作業を進めている。今年度のワークショップは、昨年に引き続き、北海道における社会調査の足跡を振り返り、今後の課題を明らかにすることを目的として実施した。

今回は、1964年から2000年までの長期間にわたり、新日本室蘭鉄工所を中心に室蘭調査に取り組んでこられた鎌田とし子東京女子大学名誉教授と鎌田哲宏静岡大学情報学部教授(当時)のお二人を講師にお招きした。講演のタイトルは、「社会構造分析の方法——室蘭調査を中心に——」にというもので、まず、鎌田とし子氏より、室蘭調査の研究テーマと理論仮説の提示が行われ、そのテーマを追い続けた36年間の調査の歩みとこれまでの成果について報告を受けた(1～3節)。1つのテーマを長年追い続けたその情熱とそこから生み出された膨大な成果は、SORDのメンバー全員が圧倒されるだけの迫力があつた。次いで、鎌田哲宏氏より、主に調査方法と分析手法について報告がなされた(第4～6節)。面接調査を基本とし、アンケート調査を補足的に用いて行われた調査は、その分析作業において、パソコンや統計ソフトが充実している現在では考えられないような苦労を当時の研究者に強いていた状況が理解された。と同時に、その困難を様々な知恵と工夫で乗り越えていく様子を、当時のコーディング票などの実物を用いた具体的な説明によって、非常にわかりやすく提示していただいた。

お二人の息の合ったお話しから、絶妙なコンビネーションで長年調査を続けられてきた様子が十分に伝わってきた。その後の質疑応答と懇親会も含め、我々の現在の取り組みにとって非常に得るものが多いワークショップであった。

ワークショップのプログラムは以下のとおりである。

### (プログラム)

- 事務局からの挨拶と趣旨説明 西城戸 誠(京都教育大学)
- 講 演 「社会構造分析の方法——室蘭調査を中心に」  
鎌田とし子(東京女子大学名誉教授)  
鎌田 哲宏(静岡大学情報学部教授)
- 質疑応答 司会：小内 純子(札幌学院大学)